

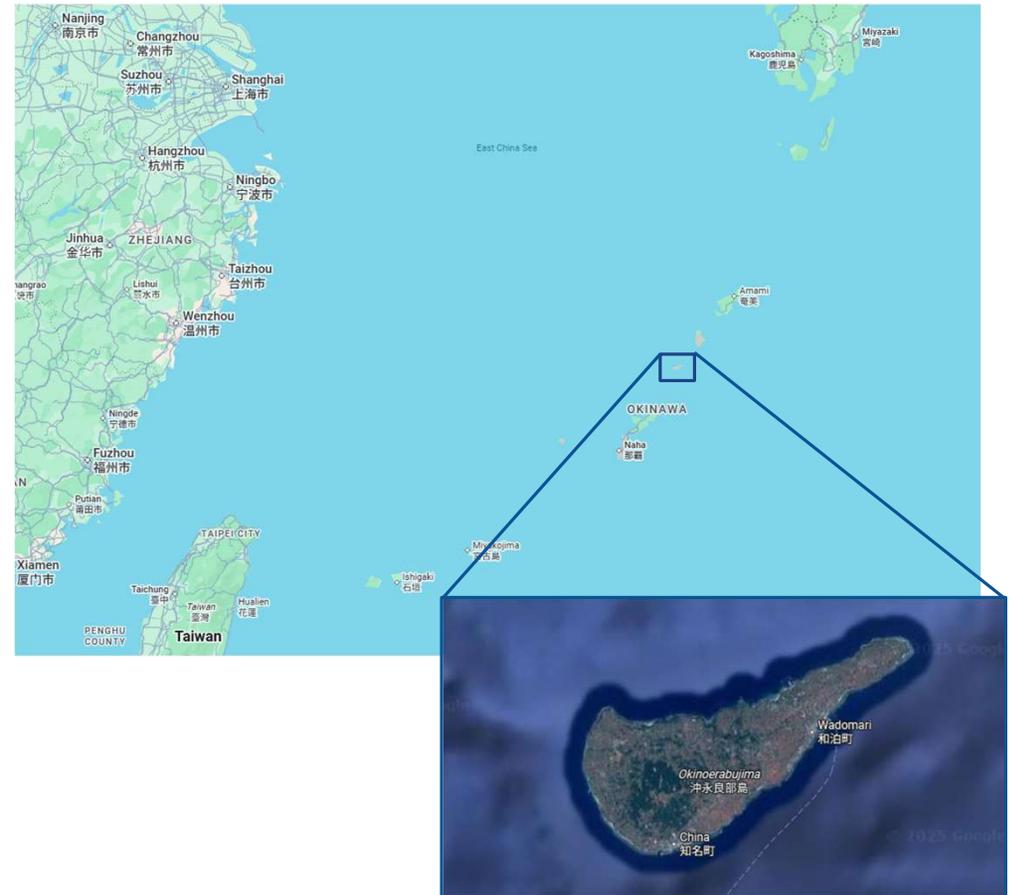
沖永良部語上平川方言の動詞 活用と形態音韻論

国立国語研究所非常勤研究員
エイデン・コールマン Aidan Coleman

1. 沖永良部の方言、変異の度合い
2. 上平川の音素、音節構造
3. 動詞類と語基交替
4. Ci動詞とsi-(する)の活用
5. 動詞と形容詞の比較
6. 他の方言との比較

沖永良部島

- 与論島と奄美群島の中に位置する北琉球諸島の一島
- 沖永良部語（シマムニ）は字(集落)によって変種が多く、字ごとに扱っている

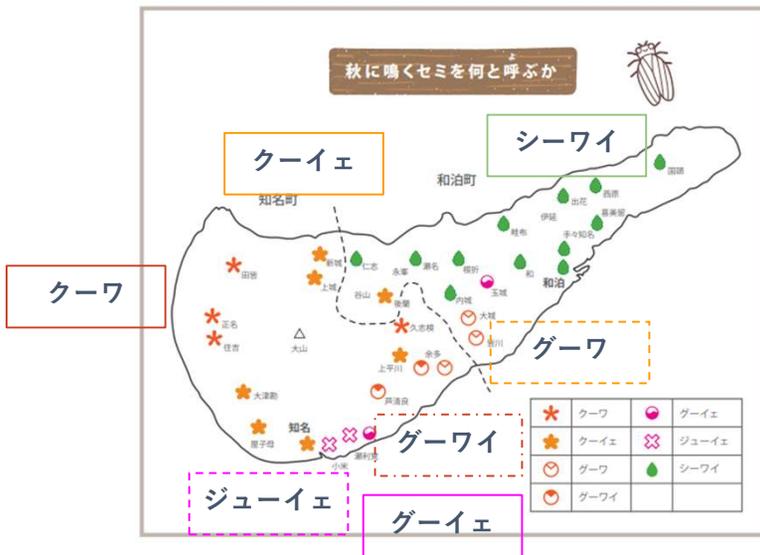


上平川 (ひょー)



沖永良部島

字によって語彙、音韻の変異の度合いが大きい



<https://www.erabumuni.com/materials>

音素 (母音)

	back	central	front
high	u, uu		i, ii
mid	o, oo		e, ee
low		a, aa	

長母音の区別:

/tajun/ (足る), /taajun/ (くっ付く)

/nisi/ (北), /niisje/ (少年)

/φujun/ (振る), /φuujun/ (借りる)

音素（子音）

	bilabial	alveolar	palatal	velar	glottal/uvular
plosive	p b	t d (ts)	tç	k g	(?)
fricative	φ	s z			h
tap		r			
nasal	m	n			
glide	w		j		

- 撥音「ん」/N/は音節のコードのみ
- /ʔ/ はオンセットのみ
 - 喉頭化共鳴音
 - 子音音素
 - ‘ゆん（言う）の活用を見ると、ʔを音素とする分析が合いそう
- /ʔ/は全島で見つかるが、上平川には一番多い

音節構造

(?)(C)(G)V(V1/N)

C = 子音, G = /w/か/j/, V = 母音, N = 撥音

- 超重音節(VVNの音節)はない
- /ʔ/は阻害音子音がある音節に出ない
 /ʔmaaga/ (孫), /ʔneenaa/ (少しずつ), /ʔwaa/ (豚), /ʔjoo/ (洞穴)
- 母音の前のʔは弁別的ではない

動詞

- 母音語根(VF), 子音語根(CF), Ci語根(Ci), 不規則の4種の動詞類

VF

- 語根が母音で終わる
- 日本語-r, -w, -Vに対応する

CF

- 語根が子音で終わる
- 終端子音が7つある
(k, g, t, s, m, b, nj)

Ci

- 語根が/Ci/の形
- 語根の長さは一拍だけ

不規則

例:

agi- (上げる), naro- (習う),
na- (なる)

mat- (待つ), ak- (歩く),
hanas- (話す)

ki- (切る・着る), ni- (煮る),
mi- (見る)

si- (する), ik- (行く), k-
(来る)

接尾辞と語基交替

- 接尾辞が語基についたら、形態素境界にある子音の交替がある
- 歴史変化による子音の交替、北琉球諸語には3種の交替がある（かりまた2012, 横山2016）
 - 基本語幹 (かりまた), Aグループ (横山)
 - 連用語幹 (かりまた), Bグループ (横山)
 - 音便語幹 (かりまた), Cグループ (横山)
- これからは横山のA, B, Cの呼び方
- かりまたと横山と同様に3種類を認めるが、上平川にはAとBの区別はない

Aグループ

接尾辞		VF例	CF例
否定 (NEG)	-(r)a-	naro-ra-N 習わない	mat-a-N 待たない
可能 (POT)	-(r)a-	naro-ra-ju-N 習える	mat-a-ju-N 待てる
命令 (IMP)	-(r)i	naro-ri 習え	mat-i 待て
禁止 (PROH)	-(r)una	naro-runa 習うな	mat-una 待つな
意志 (VOL)	-(r)aa	naro-raa 習おう	mat-aa 待とう
仮定 (COND)	-(r)jaa	naro-rjaa 習えば	mat-jaa 待てば

- Aグループは、VFの動詞だけに-rが入る

Bグループ

接尾辞		vF例	CF例
連用(INF)	-i	naro-i 習い(たい)	mat-i 待ち(たい)
非過去 (NPST)	-ju-	naro-ju-N 習う	mat-ju-N 待つ
丁寧 (POL)	-jabu-	naro-jabu-N 習います	mat-jabu-N 待ちます

- B接尾辞はiかjで始まる
- $_i, j / t, k \rightarrow t\zeta$ のような変化がある方言はある
 - 玉城：/matjuN/ > [mat ζ un] 上平川：/matjuN/ > [matjun]
 - 玉城：[at ζ un] (歩く) 上平川：[akjun]
- 上平川にはBグループの子音交替はない



Cグループ

接尾辞		VF例	CF例
テ形 (CONJ)	-i	narot-i 習って	matç-i 待って
進行 (PROG)	-u-	narot-u-N 習っている	matç-u-N 待っている
過去 (PST)	-a-	narot-a-N 習った	matç-a-N 待った

- Cグループには音便のような語基交替がある
 - 語基の子音と接尾辞の/t/との子音変化の結果だとされる（かりまた2012）
 - VFとCF動詞は、Cグループの子音変化を予測する音韻規則を想定できるが、Ci動詞は、語基交替と分析しないと正しく予測できない
 - この分析で語基交替のアプローチをとる
- 語基交替の分析から見ると：
 - VF動詞-t終わりになる（naro- → narot-）
 - CF動詞は終端子音による

Cグループ

語根子音	Cグループの語基	接続系
t (mat-)	matç-	matç-i 待って
s (hanas-)	hanatç-	hanatç-i 話して
k (ak-)	atç-	atç-i 歩いて
g (uig-)	uizj-	uizj-i 泳いで
b (narab-)	narad-	narad-i 並んで
m (kam-)	kad-	kad-i 食べて
nj (sinj-)	sizj-	sizj-i 死んで

- Cグループには音便のような語基交替がある
- 歴史的にtで始まる接尾辞だと思われるが、語基交替の分析から見ると：
 - VF動詞-t終わりになる (naro- → narot-)
 - CF動詞は終端子音による

Ci動詞・長母音

	接尾辞	?i- (言う)	mi- (見る)
否定 (A)	-(r)a-	[ʔjan]	[mjan]
可能 (A)	-(r)a-	[ʔjaajun]	[mjaajun]
命令 (A)	-(r)i	[ii]	[mii]
禁止 (A)	-(r)una	[ʔjunna]	[mjunna]
仮定 (A)	-(r)jaa	[ʔjaa]	[mjaa]
非過去 (B)	-ju-	[ʔjun]	[mjun]
丁寧 (B)	-jabu-	[ʔjaabun]	[mjaabun]
過去 (C)	-a-	[itɕan]	[mitɕan]
連体	-nu	[ʔjuunu]	[mjuunu]

- Aグループの接尾辞にはrが入らない – CFのように見える
長母音が出るところがある
- 横山(2016) 沖永良部国頭方言の場合、深層の語根が-iで終わるとしたら、Ci動詞に2つの音韻規則が当てはまる

Ci動詞・音韻規則 1

* i(j)V

i(j)V → jVV

- /i/が削除され、[jVV]となる

mi- (見る) + -ju- (非過去) + -nu (連体) → /mijunu/

- /iju/が不適格で、規則 1 が適用される

/mijunu/ → [mjuunu] (見る[名詞])

ʔVについて

ʔi- (言う) + -ju- (非過去) + -nu (連体) → /ʔijunu/

• /iju/が不適格で、規則 1 が適用される

/ʔijunu/ → [ʔjuunu] (言う[名詞])

ʔi- (言う) + -i (命令) → /ʔii/ → [ii]

深層には/ʔ/が母音の前に出ることはあるが、表層には喉頭化共鳴音か、オンセット無しとして現れる

Ci動詞・音韻規則 2

mi- (見る) + -ju- (非過去) + -N (IND) → /mijuN/

- /iju/が不適格で、規則 1 が適用される
/mijuN/ → *[mjuuN] となるが、超重音節！

* VVN

VVN → VN

- 長母音が短縮される

/mijuN/ → [mjuuN] → [mjun] (見る)

Ci動詞・音韻規則1&2

語根	接尾	深層	規則1	規則2	表層
?i-	-ju- + nu	?ijunu	?juunu	→	[?juunu] 言う
?i-	-ju- + N	?ijuN	?juuN	?juN	[?jun] 言う
mi-	-jabu- + -N	mijabuN	mjaabuN	→	[mjaabun] 見ます
mi-	-(r)a- + -N	miaN	mjaaN	mjaN	[mjan] 見ない

Ci動詞・Cグループ

意味(変種)	接尾	?i-(言う)	mi-(見る)
否定(A)	-(r)a-	[?jan]	[mjan]
可能(A)	-(r)a-	[?jaajun]	[mjaajun]
命令(A)	-(r)i	[ii]	[mii]
禁止(A)	-(r)una	[?junna]	[mjunna]
仮定(A)	-(r)jaa	[?jaa]	[mjaa]
非過去(B)	-ju-	[?jun]	[mjun]
丁寧(B)	-jabu-	[?jaabun]	[mjaabun]
過去(C)	-a-	[itɕan]	[mitɕan]
連体	-nu	[?juunu]	[mjuunu]

Aグループの接尾辞とはrが入らない – CFに見える

同様に、Cグループの接尾辞もVFの-tでなく、-tɕである

- mi-の過去形は*mitanでなく、mitɕan

Ci動詞・禁止形

意味(変種)	接尾	?i-(言う)	mi-(見る)
否定(A)	-(r)a-	[?jan]	[mjan]
可能(A)	-(r)a-	[?jaajun]	[mjaajun]
命令(A)	-(r)i	[ii]	[mii]
禁止(A)	-(r)una	[?junna]	[mjunna]
仮定(A)	-(r)jaa	[?jaa]	[mjaa]
非過去(B)	-ju-	[?jun]	[mjun]
丁寧(B)	-jabu-	[?jaabun]	[mjaabun]
過去(C)	-a-	[itçan]	[mitçan]
連体	-nu	[?juunu]	[mjuunu]

禁止形の表層形は-unaでなく、
-unnaである

-unnaという表層形はCi動詞と
不規則動詞に限られているよう
である

si- (する) とCi動詞の比較

意味 (変種)	接尾	mi- (見る)	si- (する)
● 否定 (A)	-(r)a-	[mjən]	[çiran]
● 可能 (A)	-(r)a-	[mjaajun]	[çirajun]
● 命令 (A)	-(r)i	[mii]	[çiri]
★ 禁止 (A)	-(r)una	[mjunna]	[çunna]
★ 仮定 (A)	-(r)jaa	[mjaa]	[çaa]
非過去 (B)	-ju-	[mjun]	[çun]
丁寧 (B)	-jabu-	[mjaabun]	[çaabun]
過去 (C)	-a-	[mitçan]	[çan]
連体	-nu	[mjuunu]	[çuunu]

● Ci動詞と違い、rが入っているA接尾辞がある (VFの特徴)

★ 禁止形と仮定形にはrが入っていない (CFの特徴)

Ci動詞と同様に、禁止形が-unna

禁止形は規則1-2通りに現れる：

si- + uNna > siuNna > 規則1 sjuuNna > 規則2 sjuNna > [çunna]

si- (する) とCi動詞の比較

意味 (変種)	接尾	mi- (見る)	si- (する)
否定 (A)	-(r)a-	[mjan]	[ɕiran]
可能 (A)	-(r)a-	[mjaajun]	[ɕirajun]
命令 (A)	-(r)i	[mii]	[ɕiri]
禁止 (A)	-(r)una	[mjunna]	[ɕunna]
仮定 (A)	-(r)jaa	[mjaa]	[ɕaa]
★ 非過去 (B)	-ju-	[mjun]	[ɕun]
★ 丁寧 (B)	-jabu-	[mjaabun]	[ɕaabun]
● 過去 (C)	-a-	[mitɕan]	[ɕan]
★ 連体	-nu	[mjuunu]	[ɕuunu]

★ Ci動詞と同様に、規則1-2で予想する長母音が出る

● Cグループの接尾辞がCi動詞の-tɕでもなく、子音交替もない

- 否定形と過去形は同じ接尾辞だが、否定形でVF(-r入り)とされ、過去形でCFとされて区別が維持されている

形容詞

意味	jukwa- (良い)	amasa- (甘い)	hoorasja- (うれしい)	a- (ある)
否定 (NEG)	jukwa na-N	amasa na-N	hoorasja na-N	na-N
仮定 (COND)	jukwa a-rjaa	amasa a-rjaa	hoorasja a-rjaa	a-rjaa
• 非過去 (NPST)	jukwa-N	amasa-N	hoorasja-N	a-N
• 連体 (ADN)	jukwa-nu	amasa-nu	hoorasja-nu	aa-nu
丁寧 (POL)	jukwa a-jabu-N	amasa a-jabu-N	hoorasja a-jabu-N	a-jabu-N
テ形 (CONJ)	jukwa at-i	amasa at-i	hoorasja at-i	at-i
過去 (PST)	jukwa at-a-N	amasa at-a-N	hoorasja at-a-N	at-a-N

大概形容詞語基+a-(ある)の形になる

非過去形と連体形は、接尾辞が直接ついているようである

- **jukwa an, jukwa anu**という方言もあるため、+a-の形の短縮形だとみられる

形容詞と名詞

- 非過去以外の場合、形容詞と名詞に同様にa-がついている

過去

太郎=ワ {ハギ=又 ヘーサ **ア-タ-ン** / シンシエ **ア-タ-ン**}.
太郎=TOP {足=NOM 早 **a-PST-IND** / 先生 **a-PST-IND**}
太郎は{早かった/先生だった}.

形容詞と名詞

- 非過去の場合、形容詞は-(a)Nをつけて、名詞はja-Nのcopula

非過去

太郎=ワ {ハギ=ヌ ヘーサ-ン / シンシエ ヤ-ン}.

太郎=TOP {足=NOM 早-IND / 先生 COP-IND}

太郎は{早い/先生だ}.

他の変種との比較

- Bグループの語基交替

上平川：Aグループと同様に、接尾辞を直接つける

A: mat- + -a-(NEG) + -N_(IND) → [matan] (待たない)

B: mat- + -ju-(N.PST) + -N_(IND) → [matjun] (待つ)

玉城：Bグループには口蓋化

A: mat- + -a-(NEG) + -N_(IND) → [matan] (待たない)

B: mat- + -ju-(N.PST) + -N_(IND) → matjun → [matçun] (待つ)

他の変種との比較

- 超重音節

上平川：動詞規則 1 & 2

mi- + -ju-(N.PST) + -N_(IND) → mijuN → mjuuN → mjuN → [mjun] (見る)

田皆：-Nの削除

waro- + -i-(N.PST) + -N_(IND) → waroiN → [waroi] (笑う)

かりまたしげひさ. 2012. 「宮古語の動詞活用」 『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 南琉球宮古方言調査報告書』
国立国語研究所

横山（徳永）晶子. 2016. 『琉球沖永良部島国頭方言の文法』 [一橋大学博士論文]



きちくりてい みへでいろ！